

【英語】 <中学校 第1学年>

1 結果のポイント

- 「聞くこと」について、自然な口調で話された会話や英文を聞いて、会話の場面や話題の中心などの概要・要点を聞き取る力や、短い英文を聞いてその英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力をみる問題の正答率がほぼ80%を上回っている。
- 他方、問いかけから相手の尋ねたい内容を正しく理解して、適切に応答する力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものもある。
- 「読むこと」について、いくつかの情報を整理して正しく読み取ったり、大まかな内容や大切な部分を読み取ったりする力をみる問題の正答率がほぼ80%を上回っている。
- 他方、会話の流れを理解して、状況に応じて適切な応答を選択したり、会話を完成したりする問題では、正答率が60%を下回っているものもある。
- 「書くこと」について、与えられた場面や英文を手がかりに、内容が正しく伝わるように英文を書く力をみる問題の正答率が70%程度である。
- 他方、一つの話題について、読み手を意識しながら伝える内容を整理してまとまりのある英文を書いたり、英文の構造を理解して正しい語順で書いたりする力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものもある。

2 結果の分析

(1) くわしい内容を聞き取る力をみる問題の例

<問題> 2 の2 (テープ問題)

これから、それぞれの絵について英文を四つ言います。絵の内容に合った英文をア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。英文は2回くり返して言います。

- (放送文)
- ア It's a nice day. A girl is having lunch in the park.
 - イ It's a nice day. A girl is studying English in the park.
 - ウ It's a nice day. A girl is playing tennis in the park.
 - エ It's a nice day. A girl is watching birds in the park.



<結果> 2 の2 正答率 89.3% (正答…エ)

<分析>

2 は、自然な口調で話された英語を聞き、watching birds 等の動詞句を手がかりに絵に示された状況を聞き取る力をみるものである。2 の3つの問題の正答率はほとんど80%を上回り、昨年度の類似問題より向上している。同様に3の大まかな内容を聞き取る問題でも、会話文、叙述文ともに正答率がすべて90%を上回っており、昨年度以上に高い正答率を示している。

これは、目的に応じて聞き取る内容を自分で考えながら聞くことができるようにする指導や「どのような場面か」「何についての会話か」等の視点を提示して、場面や話題の中心を聞き取る指導が継続的に行われている成果と考えられる。概要や要点を理解する力については、同じ理解領域の「読むこと」についても5の問題の正答率が80%程度と高いことから、昨年に続いて安定して身に付いているといえる。

(2) 話の流れを理解する力をみる問題の例

<問題> 6 の2

次の会話は、アメリカへ来たばかりのエミ(Emi)が、アメリカ人の友人ジョン(John)に電話をかけたときのものです。会話文が自然な流れになるように、()の中に入れるのに適切な英文はどれですか。

- ア Please teach me.
- イ Are you from Japan?
- ウ You are very busy.
- エ Let's go to school.

Emi: Hi, John. Are you busy now?
 John: No, I'm not. Why?
 Emi: I have English homework. It's not easy.
 ()
 John: OK. Come to my house. Let's study!

<結果> 6 の2 正答率 73.5% (正答…ア)

<分析>

⑥は、英文を読んで前後の文脈から欠落した部分の内容を推測する力をみる問題である。一昨年度より課題となっているこの力をみる類似問題は、昨年度、本年度と正答率の向上傾向がみられる。⑥の2は I have English homework. It's not easy. と OK. Come to my house. Let's study! とのつながりから Emi が助けを求めて発話していると判断できたと考えられる。⑥には、正答率が50%程度のももあり、今後も教科書題材の場面や状況を理解し、会話の流れをつかむ指導や登場人物の気持ちになって会話文を音読する活動等の充実を一層図っていく必要がある。

(3) まとまりのある英文を書く力をみる問題の例

<問題> ⑧

あなたはイギリスにいるペンフレンドに、あなたの学校の先生または友だちのことを写真入りで初めて紹介することにしました。その人の好きなものをスポーツ、音楽、食べ物などから一つ選び、相手にその内容が伝わるように、3文以上の英文で書きなさい。

ただし、最初の文は This is を書き出しとして始めなさい。なお、This is で始まる文も1文として数えます。また、紹介する人の名前も入れて書きなさい。

<結果> ⑧ 正答率 49.2%

<分析>

身近な話題について伝えたい内容を自分で考え、つながりを大切にまとめてまとまりのある英文を書く力をみる⑧では、十分に力が身に付いていない。また、無解答率が比較的高い傾向が昨年度に引き続きみられる。これは、人物像を自分でイメージし、紹介しようとする内容を英文にすることができなかつたと考えられる。また、誤答については、She likes music. She plays tennis. のように、2つの文に話題の一貫性がない例が多くみられた。今後は、教科書の英文をまねながら一部分を変えて自分のことを書いたり、「話すこと」の言語活動と関連させて、話したことを書いたり、書く前に伝えたいことを口頭で言ったりする活動を設定するなどして、生徒が「書くこと」に自信をもって取り組めるような指導を考えたい。

(4) 正しい語順で英文を書く力をみる問題の例

<問題> ⑩の1

次の会話を完成させるために、[] 内に与えられた語を並べかえて () の中に入れ、正しい英文を完成させなさい。ただし、[] 内の語は、文頭にくる語も小文字になっています。

1

A : () ?

B : I'm from Gifu.

[are / where / from / you]

<結果> ⑩の1 正答率 61.7% (正答… Where are you from?)

<分析>

⑩は正しい語順で英文を書く力をみる問題で、正答率が60%を下回るものがあり、十分身に付いているとはいえない。⑩の1の誤答については、are you from where が最も多く、疑問詞の語順が理解できていないと考えられる。他の問題についても否定文の場合の主語の語順が理解できていないなど、適切な語順で文を書くことができるような指導が必要である。「書くこと」については、内容が正しく伝わるように書く力をみる⑨の問題で、2問とも70%前後の正答率が得られ、昨年度の類似問題の結果からも使用頻度の高い表現についてはほぼ定着していると考えられる。

今後は内容が正しく伝わるように書くことができたことを十分に認めながらも、伝えることだけを目的とするのではなく、一般動詞と be 動詞を区別して書くことや、適切な語順で書くこと等、より正確な表現を求める指導を充実させていく必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・3年間を通じて、音声によるコミュニケーション能力の育成を一層重視しながら、「読むこと」や「書くこと」の領域の指導の充実を図りたい。そのため、「読むこと」の言語活動「エ 伝言や手紙等から書き手の意向を理解し、適切に応じること。」や「書くこと」の言語活動「ウ 自分の考えや気持ち等が読み手に正しく伝わるように書くこと。」を扱う単元を、3年間を見通して計画的に設定する。
- ・年間指導計画において、各領域の課題と考えられる指導事項が適切に位置付けられているかを見直す必要がある。「聞くこと」「話すこと」の言語活動を重点とした単元においても、他領域と関連させ、課題となる指導事項が、繰り返し指導され、系統的・発展的に扱われるように工夫したい。見直す手法の一つとして、例えば各単元において重点とする言語活動の指導事項とそれに関連して行う言語活動の指導事項を記入した一覧表を作成することが考えられる。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「聞くこと」「読むこと」について、会話の流れを理解して、状況に応じて適切に応答する力を付けることが大切である。その際、会話の流れや文と文との内容のつながりを大切にしながら理解できるようにしたい。例えば、**Do you have a watch?** に対して **Pardon?** と聞き返されたとき、「時間を聞きたい」という自分の意向を相手に分かるように伝えるために **What time is it?** と言い換えるなど、言語の働きに着目して指導することが大切である。また、相手の意向を正しく理解できるように、語彙の指導において **moon** 一語だけを取り出して指導するだけでなく、その語句が使われている場面や状況とともに **on the moon** のようなまとまりで理解するよう指導したい。
- ・状況に応じて適切に応答する力を付けるために、「話すこと」においては、即時的判断を要する対話を繰り返し行いたい。始めは、好きか嫌いかなどの短い対話から指導し、相手の応答に応じて話題を発展させてつないでいく対話へと段階的に指導していくことを通して、言語形式によらないで適切に応答することができるようにしたい。このような指導は、授業開始後の数分間を帯活動として位置付け、継続的に行っていくと効果的であると考えられる。また、これらについては、音声を正しく認識し、語句や文の意味を正しく聞き取る力を付ける指導を継続しながら行うことが大切である。
- ・「書くこと」について、まとまりのある英文を書く力を付けることが大切である。そこで、教科書の英文等から文と文のつながり等について、どのような書き方をするとよいかを学習した上で、それを基に自分のことに置き換えて英文の空所を補充したり、最初の部分が書かれている文に続けて書くなどの指導を考えたい。もう一つは、書く過程を大切にしたい指導である。書く前に、「誰に」「何のために」書くのかといった相手意識や目的意識をもてるようにすること、書く際には、書く内容と言語材料を基に「何をどのように書くか」をメモ書きすること、書いた後には、つながりのある英文が書けているかどうかをペアで読み合い、修正しながら再度書くこと等が考えられる。また、書く活動への意欲を十分に喚起するため、教科書題材を参考にしながら生徒の興味・関心に即した話題を取り上げるようにすることも大切にしたい。
- ・「書くこと」については、英文の構造を理解し正しい語順で書くことも大切である。そこで、「話すこと」と関連させた指導が考えられる。例えば、対話をしている生徒の発話する英語を注意深く聞き取り、活動終了後に、十分にコミュニケーションを図ることができたことを認めた上で、より正確な発話を求めて指導することが必要である。その際、多くの生徒に共通する誤りなのか、一部の生徒に特有の誤りなのかを見極め、フィードバックの方法を工夫することが大切である。前者の場合には、活動後に再度練習し、正確な発話を求めてもう一度活動を行うことも考えられる。このように、言語活動中の生徒の様相を把握し、実態に応じた指導を行うためには、評価規準が具体的なものであることが大切である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・「聞くこと」「読むこと」において、概要・要点を理解する力をより伸長するために、ALT等を有効に活用し、自然な口調で話されたり読まれたりする英語に触れる機会を今後も大切にしたい。
- ・「聞くこと」について、質問や依頼等、英語で話しかけられている内容を正しく聞き取り、相手の意向を理解して適切に応じる力を付けるために、英語を使って意向を伝え合う場をできるだけ多くもつことが必要である。ペアやグループ等の活動が有効に機能するよう温かい人間関係を醸成するとともに、生徒も教師も常に英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする雰囲気のある学習集団を育成することが大切である。

